

(別添1)

令和2年度老人保健健康増進等事業

介護福祉士のキャリアアップ等の在り方に関する調査研究事業

株式会社日本能率協会総合研究所

本調査研究事業においては、介護福祉士の就労状況や労働環境、実際の業務内容、職場における役割やキャリア形成等について調査・分析を行い、介護福祉士が期待される役割を果たすために、介護福祉士の資格取得後にどのような知識・技術の習得が求められるか、介護福祉士の実態的な状況の把握を行うとともに、介護福祉士のキャリアパスの類型化と類型別の特徴について整理を行っている。

介護福祉士のキャリアパスの類型化については、自分自身のキャリアの現状・今後の展開について、7項目の観点で探索的検討を行った。その結果、「キャリア意識未形成タイプ」「実践重視タイプ」「マルチプレイヤータイプ」「プレイングマネージャータイプ」「高度ジェネラリストタイプ」「マネジメント重視タイプ」の6つのキャリアタイプを導出した。

また、7つの観点を更に「現場力発揮」「組織マネジメント力発揮」「知識・技術指導」「他資格取得による対応範囲強化」の4項目に統合し、キャリアタイプ別の特徴も明らかにするとともに、6つのキャリアタイプのポジショニングマップを作成した。

今後、介護福祉士のキャリア形成においては、個人のキャリア志向を踏まえつつ、適切に支援を行うことが、介護福祉士の定着およびモチベーションの向上に寄与するものと考えられる。

調査結果並びにヒアリングの結果から、国家資格である介護福祉士は、資格を持つことに対する意欲は高く、また専門職として自己研鑽を行いながら介護技術の維持・向上を図ることに対する意欲も高いことが分かった。しかしながら、今まで、介護福祉士として次に目指す資格は「介護支援専門員」という認識があり、キャリアチェンジをしなければ、資格のキャリアアップはできないと感じていた。そのため、「介護支援専門員」を志向しない介護福祉士が介護の現場でキャリアアップを図るには、マネジメント職になるということになる。但し、マネジメント職はポスト職であり、誰もがなれるわけではないこと、また専門職の傾向としてマネジメント職に対する志向よりも、専門職としてのキャリア形成を志向する傾向が強いこともあり、介護支援専門員を目指さない、またマネジメント職も目指さない多くの介護福祉士にとって、キャリアパスは極めて不透明な状況であったと推察される。

そのような中で、2015年12月から開始された「認定介護福祉士」により、キャリアチェンジをしなくても、またマネジメント職を目指さなくてもキャリアアップできる道が開かれたことは、介護福祉士にとって大きな意味があると思われる。

今後は、新たに示された介護福祉士のキャリアパスに対し、現行の研修プログラムがこの新たなキャリアパスを支援するものとなっているかどうか点検を行って、より充実したプログラムを提供することが求められている。